

E-25 家庭内の団集を中心とした家族の同一生活行動の考察(第2報)

— 小・中学生をもつモデル家族の共通起床在宅時間とその生活行動 —

千葉大教育 大町淑子

目的：家庭内で家族がともに過ごす団集の実態と、生活の時間帯や内容からとらえるため、NHK国民生活時間調査を資料として考察した。

方法：モデル家族の構成、共通起床在宅時間、同一生活行動のとり方は、第1報に同じである。第2報では、昭和45年調査ととりあげ、昭和50年調査と比較、検討した。

結果：1. 昭和45年調査について。

1) 共通起床在宅率(モデル家族が、それぞれ家庭に起床在宅している割合の内、最小の比率)の高い時間帯は、朝・夕に二分されている。平日・土曜日の朝は7.00~7.30の60%が最高で、その前後1時間が高いが、日曜日の最高は7.00~7.30で41%と低い。夜は平日の19.30~21.00が70%、土曜日は20.00~21.00が70%で、日曜日は18.30~21.00が70%を超えている。日曜日の昼間の共通起床在宅率は、最低で25%で、平日・土曜日の昼間よりかなり高くなっている。

2) テレビ視聴率が30%以上になるのは、平日で20.30~21.00、土曜日は20.30~21.30、日曜日は20.00~21.00で、最高は日曜日の20.30~21.00の43%である。

2. 昭和50年調査と昭和45年調査を比較して

1) 昭和50年は45年に比較して、朝の共通起床在宅率が時間的にゆるやかに上昇し、夜の下降も遅くなっており、遅寝、朝寝坊の傾向をみせている。昼間の共通起床在宅率は、土曜日の午後、日曜日に、昭和50年の方が高くなっている。

2) テレビ視聴率は、50年の土曜日の午後僅かに増加する他、全般的に減少傾向である。